

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372700924
法人名	社会福祉法人 蘇清会
事業所名	グループホーム あいらく
訪問調査日	平成 19年 11月 28日
評価確定日	平成 19年 12月 11日
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月11日

【評価実施概要】

事業所番号	4372700924		
法人名	社会福祉法人 蘇清会		
事業所名	グループホーム あいらく		
所在地	熊本県上益城郡山都町滝上223番地の1 (電話)0967-83-1335		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと		
所在地	熊本市上通町3番19号402号		
訪問調査日	平成19年11月28日	評価確定日	平成19年12月11日

【情報提供票より】(平成19年 11月 15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤	6 人, 常勤換算 6 人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建て	1 階 ~	階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	11,000 円	その他の経費(月額)	29,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 0 円
	または1日当たり		800 円

(4)利用者の概要(11月 15日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	名	要介護2	1 名			
要介護3	4 名	要介護4	1 名			
要介護5	3 名	要支援2	名			
年齢	平均	89 歳	最低	80 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	蘇陽病院 山口医院 柏歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな山あいの一角にあるホームは法人相互の連携体制が図られており入居者や家族にとって安心で安全が確保されている。定例の法人内合同会議で議題に上げた、入浴時の車椅子型の回転チェアの導入や、浴室リフォーム等、課題解決に向けた対応・対処は、法人一体としてのケアの充実が感じられる。入居者のレベル低下に伴い、職員の負担も増加傾向にあるものの職員のチームワークで寄り添うケアを第一に個別ケアが行なわれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	火災等の緊急時対応に関しては、非常ベルの設置やインターフォンの活用で隣接する介護施設との協力体制が整い、入居者や家族・職員にとっても安心感を与えることとなった。入居者の状態のレベル低下が進み外出の機会が少なくなったため、花や写真等で季節感を取り入れ、コミュニケーションを図るよう支援している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者及び職員は自己評価や外部評価の意義を理解しており、全員で自己評価に取り組んだ。改善項目については、職員間で話し合い、意識改革とサービスの向上に向け努力している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は二ヶ月に一度ホーム内の和室で開催され、推進メンバーはグループホームの現状を把握することができる。議題としては状況報告が主であり、活発な意見交換までには至っていない。今後は、議題の選定・委員の選定等に期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の面会時に入居者の心身状況を報告している。遠方の家族には電話等でコミュニケーションを取り、家族からの意見が出やすいような働きかけを行なっている。要望・希望などは、家族会に常に問いかけて運営に反映していく考えである。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	月2回隣接する法人施設で行なわれる舞踊やカラオケイベントに、入居者の状態・状況に応じて出かけている。入居者のレベル低下に伴い外出の機会は減少しているものの状態に応じた個別ケアの努力が感じられる。今後は地域推進会議に働きかけるとともに家族会の協力を得ながら地域との連携が望まれる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの理念をさらに内容を充実してケアに取り入れたいと考えている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は理念について職員採用時や職員会議の中で話しをしいる。又、ホールの見やすい壁に掲示し、日々理念に沿ったケアを心がけている。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する介護施設に小学生の慰問やボランティアの舞踊、カラオケ等のイベントがある時は参加している。また、ホームにも立ち寄ってもらうなどして交流をしている。地域の祭り等にも出来るだけ参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は外部評価や自己評価の意義を理解しており、今回も全員で自己評価を実施した。改善点については職員間で話し合い実践につなげている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度の開催で、今年度はホーム側の報告が主になっておりグループホームの意義や役割、利用者の状況や活動報告を議題に取り上げている。		議題の年間計画や委員の人選なども考慮して活発な委員会運営に期待します。

グループホームあいらく

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に開催される地域連絡担当会議に出席し、医療、保健、福祉関係職員と情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会時に入居者の健康状態やホームでの様子を報告している。遠方の家族には電話や、広報誌などでそれぞれに合わせた報告を行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時に要望や意見を聞けるよう働きかけている。		家族会の運営支援を含めて活発な意見交換が出来る場の設定等望みます。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動で職員の交代はあったが、入居者との馴染みの関係を早めに築き入居者の戸惑いを最小にするケアに心がけた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修の他、外部研修にも交代で参加している。研修報告を行い職員の質の向上に努めている。又、介護支援専門員の資格取得も支援するなど職員育成の体制が整っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上益城ブロックの研修会に参加し、意見交換を行っている。毎回参加出来るように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	見学や家族の協力を得ながら、職員の働きかけで徐々に馴染んでもらうよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	入居者に寄り添うケアを心がけている。生活歴に配慮した支援を行い、共に過ごしながらか職員も学んでいる。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	日々の生活の中から入居者の希望や意向を把握している。意思表示が困難な入居者は家族から意向を聞いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	入居者の生活歴や家族の意向を基に、関係者の意見を含め職員間で話し合い介護計画を作成している。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	毎月ケアカンファレンスを実施し、担当職員の意見を基に職員で話し合い、入居者の状況に応じて計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(E)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者が長期入院となった場合、ショートステイとして利用できるよう家族の了解を得ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族が希望するかかりつけ医を尊重し、遠方の病院へは家族が同行している。協力医への通院は職員が支援して。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針は家族に説明している。家族医師、ホームと話し合い、医師の所見を基に対応し、職員も共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライバシーに配慮した対応を心がけている。声かけをする時は、耳元で話しかけたり、ジェスチャーを交えて意思疎通を図るなどの対応をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の重度化が進んでいるため希望を聞き出すのは困難だが、寄り添ったケアの中から表情を読み取り、一人ひとりのペースに合わせた支援を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の状態や気分を尊重して、職員と一緒に買物や下ごしらえ等を行なっている。メニューには季節感を取り入れ、言葉かけに配慮しながら、楽しく食事ができるような雰囲気づくりを行なっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者は午前・午後の好きな時間に、ゆっくり入浴できる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの潜在能力が、発揮できるような場面づくりを行なっている。日常の生活を楽しんで暮らせるような支援を心がけている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、職員と一緒に買物や散歩に出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、自由に出入りできるようにしている。職員は身体拘束についての弊害を理解しており、拘束のないケアを実践している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回は法人の介護施設と合同で非難訓練を実施し、消防署の研修を受けている。非常時の協力体制も法人間で整っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	こまめに水分摂取ができるよう配慮している。入居者の状態に応じてとろみをつけたり、きざみ食にし、栄養摂取を考慮した支援を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにソファ、和室には掘り炬燵を置き、ゆっくりとくつろげる空間を提供している。テーブルや壁等には季節感を取り入れた花や飾り付けを行なっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族と相談しながら馴染みの物を持ち込んでもらい一人ひとりに合った居室づくりを支援している。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム あいらく
(ユニット名)	1ユニット
所在地 (県・市町村名)	熊本県上益城郡山都町滝上223-1
記入者名 (管理者)	丸山 一美(計画作成担当者)
記入日	平成 19 年 11 月 15 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>これまでの理念を継続しながら地域性を生かし住み慣れた地域で安心した暮らしを提供できるように作り上げている</p>	<p>理念はホールの見えやすい所に掲げ常に関係者が基本理念に沿ったケアを継続し安心した暮らしが送れるようにしている。内容の濃い充実したケアを目指す</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>職員の採用時には必ず理念を伝え理解してもらえるようにしている。掲げている理念を時々は見つて原点に戻るようになっている。</p>	<p>継続して行っていく</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族には訪問時や家族会等で伝えている。運営推進会議でも伝えている。</p>	<p>出来るだけ地域に出向くよう取り組む</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>地域からかけ離れているが買い物等出かけ出合ったときには知人の方から話しかけてもらっている。慰問やボランティアにこられたときなどは気軽に立ち寄ってもらっている。</p>	<p>日常的には出られないが買い物などで出会ったときにはこちらから声をかけるようにしている</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の祭りには数人だけでも参加させている。また、小学校他の団体の慰問は快く受け入れている。</p>	<p>各団体の慰問等行われるときには必ず特養から連絡が入るために少人数でも欠かさずに参加している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の中で取り組み等を話し合っている		運営推進会議からの声は少ない
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全員で行い見直しが必要なところはチェックしてサービスの向上に努めている。外部評価の結果も全員に配布し改善に向けて具体案の検討や実践につなげるために努力をしている		自己評価・外部評価の結果を踏まえて自己の意識を高めるように努力したい
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では現状報告が多く一方的になってしまっている。意見が出たのに対しては取り入れている。		地域で行われているいろんな行事に参加できるように運営推進会議で働きかけたい
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	医療・保健・福祉関係職員(地域連絡担当会議)が集まり各機関からの連絡事項について情報交換を行っている。		出来るだけ参加している
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	成年後見制度について学び必要な人には活用できるように取り組んでいく		現在まで利用者の中に必要な方がおられなかったので当ホームでは対応したことはなかったが、利用者が相談にこられた場合は対応していきたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はないがミーティング等で時々話題にしている		虐待は絶対にあってはいけないものであるから受容の気持ちで接している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>事前面接や、入所時に時間をとって契約書、重要事項説明書をわかりやすく説明し理解を得ている</p>	<p>今後も説明は行って行く。GHをより理解してもらうためにも続けていく</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の言葉や態度、行動からその思いを察する努力をし利用者本意の支援を行うように心掛けている。又、カンファレンス時に話し合い職員共有でケアにあたっている</p>	<p>利用者からの不満は聞かれないが、行動、言語から職員が察することが大事と思える</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族が面会に訪れたときや緊急に連絡しなければいけない場合は電話などでその都度報告を行っている</p>	<p>家族にはその都度説明や連絡を行い安心されて任せておかれるように心がける</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>訪問時や家族会等で常に問いかけ気軽に何でも質問してもらえ雰囲気作り心掛けている</p>	<p>面会時などにもさりげなくホームに対しての不満はないかを聴くようにしている</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃から職員とのコミュニケーションを図るように心がけ、問いかけたり聞き出したりしている</p>	<p>職員からの意見は必ず聞いて運営面に反映させている</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>24時間対応できるローテーションは組んでいる。欠員が生じた場合はパートを入れるように組んでいる</p>	<p>現時点での職員増員は難しいために限られた職員で利用者が安心して過ごされるように取り組んでいく</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>特別養護老人ホームとの併設であるために、移動はなされているが移動に関しても利用者には不安感を持たせないように最善の努力は行っている</p>	<p>新人の職員にはなじみの関係を早く築いてもらい利用者が戸惑われないようにしている</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	サービスの向上のために順番に研修等参加できるようにしている。又、研修報告もカンファレンス時に発表を行うようにしている	研修等には積極的に参加を促している。職員の研修には特に力を入れている
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH定例研修会には参加し意見交換を行っている	継続して参加する。元気な利用者を引率し他のホーム(町内5ヶ所あるので)も訪問してみたい
21	職員 のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	食事時間やおやつ の時間をゆっくりにとってもらい ストレスにならないように気をつけている。笑いが絶えずチームワークも良好である	ストレスを感じたことはない
22	向上心 を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者も時間があるときには現場を訪れ利用者 と過ごしたり 職員の業務も把握されている。気づかれた事にはアドバイスされている。	職員には気軽に声をかけ勤務状態などを把握するように努めている
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接で生活状態を把握するように努めている	本人からは意思疎通があいまいなために聞き出すことは難しい。家族から聞くことの方が多い
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の話をじっくり聞き何に困っておられるのかを把握してGHの概要等を説明して安心されるように努めている	不安をもたれないように家族からの話はゆっくりに聞くことにしている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	重要事故説明書を説明して家族の気持ちを聞いたうえで対応に応じている		重要自己説明後は必ず家族からの希望・要望を聞くようにしている。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	話を聞いただけでは不安に思われる家族には見学に来ていただいたり一時一緒に過ごしてもらう等の工夫はしている		雰囲気慣れられるまでそっとしておき徐々に打ち解けてこられるように配慮しながら支援している
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を第一に考え私達は何時でも側におり貴方を見守っていますとの心で接してよりよい関係ができるように支援している		職員が利用者の方に昔からの色々な出来事などを教えてもらい学ぶことも多く支えあっている。今後も、毎日が楽しく過ごされるように支えあいながらより良い関係を築いていく
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者のケアで困ったときには家族に連絡を取り家庭ではどのようにされていたのかアドバイスを受け一緒に支え合えるよう努めている		家族の方とはいつでも連絡が取れるようになっており困ったことなどアドバイスを受け一緒に支えあえるように努める
29	本人と共に過ごし支えあう関係 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	お誕生会・行事等には参加してもらい本人・家族・職員との良い関係を築いている		年間行事等には出来るだけ参加していただいている。特にお誕生会などは家族に参加していただき楽しく過ごしてもらっている
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	加齢とともに外出を拒まれる傾向が強くなり面会に来ていただくことが多い		なれそ身の人達も気軽に訪問されるように取り組み(手紙を書く等)生活状況を伝え関係が途切れないように努めたい
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	「憩いの場」がホールであるために全員でリズム体操・ゲーム・歌をしたりと孤立されないように努めている		ホールにソファを設置しており思い思いの場所ですつろいでもらっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用が終了して1~2ヶ月は連絡したりしているが自然消滅となってしまう		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で話を聞きできるだけ希望を取り入れるようようになっている。意思表示ができない人には家族に希望を聞くようになっている		利用者の希望を聞き可能か不可能化を把握して出来るだけ希望に添えるように努力する
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接で聞き取ったり入所後本人や家族に尋ねたりと把握に努めている		利用者一人ひとりが束縛のない安らぎのある自由な暮らし笑ったり怒ったりと感情豊かに生活出来るように努めている
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活のリズム理解するとともに行動やどうさにも注意している。本人のできることに對しては声掛けしながら継続されるように支援している		一人ひとりの個性を大切にしその人のペースで自由に過ごされるように支援していく
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の要望を聞き介護計画を作成している、職員からの気づきも取り入れている		確実な申し送りや情報伝達を行い利用者により良い生活が送れるように取り組んでいく
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しをおこなっている。状態変化が起きた場合はその都度計画を作成している		介護計画の見直しは皆で行うようになっている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録を行なっている。排尿、排便、入浴はその都度記入をして全職員がすぐに見られる場所に配置している		日々の様子を記録に残し本人との関わりで気付いた点などより具体的に記入し全職員が共有して介護計画に活かせるように努力する
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期間利用共同生活介護の指定は受けているが利用されたことはない		入院などで長期に空室となる場合は、家族の了解を得てショートとして利用させていただくことを入所時に話し合いをしている
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、ボランティアは運営推進会議のメンバーであるために協力はしてもらっている		他の機関の方にも協力依頼が必要である
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	隣接の特養老人ホーム・デイサービスセンタに出向いてゲーム・行事等参加して一緒に過ごさせてもらっている		ホームだけでは活動が限られているために今後も取り組んで生きたい
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターには運営推進会議に時々参加してもらっている		いつでも相談できる関係を作る
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	蘇陽病院・山口医院・柏歯科と契約を結んで利用者の健康管理を行っている		週一回の回診、緊急時に往診を依頼して早期発見・早期治療に努め利用者にとって安心して過ごされるように取り組んでいる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	山村地のために専門医はないが主治医には相談している		主治医からの指導の元、他機関への受診を薦められたときには他機関受診を行っている
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	准看護師が配置されている。又、特養、デイ、GH全体の看護部会があり感染症、各部署で発生した困りごとなど相談や勉強会を行っている		今後も勉強会は続ける
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には病院との情報交換を行ったり職員が見舞いに行き状態報告を行っている		見舞いに行き誰かを忘れられないように心がけ、又病院関係者にも状態を尋ねるようにしている
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、家族・医療GHと話し合いを行いGHで対応できる範囲のケアについては支援している		家族、主治医、ホームとの話し合いで医療が必要ならば病院に移転、ホームで大丈夫であれば職員共有の方針で行っている
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の意向を踏まえ主治医・職員が連携をとり安心され納得した最期が迎えられるように取り組んでいる		家族とも話し合いを持ちターミナルになった場合、本人にとってどこが一番いいのか検討している
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族・病院・GHでその人にとって何所に住んだが良いのかの話し合いは行っている		他の事業所などにも問い合わせを行いその情報を家族に伝えている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねないように大きい声で話しかけたり、他者に聞こえないよう配慮した対応を行っている	特に言葉賭けには注意して大きい声で利用者に関することは言わないように心がけているが必要に応じて方言になったり大きい声になってしまう
51	<small>利用者の希望の表出や自己決定の支援</small> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の能力に合わせて繰り返し説明したり表情を読み取りジェスチャを交えながら本人が決める場面を作っている	職員の声賭けで意思表示が出来るように心がける
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人からこうしたいとの要望は聞かれないがその時の本人の気持ちを尊重してできるだけ個別性を生かすように支援している	利用者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように取り組む
(2) その人らしい暮らしを続けるための記本家記ナ生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人で選べる人は選んでいただき見守りや支援が必要なときに手伝うようにしている。又、行事等にはお化粧やおしゃれな服を着て楽しんでもらっている	いつでも清潔でいてもらうために散髪や衣類の汚れなどに気を配り髪が伸びたらカット汚れていたら即交換するなど心がけている
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ(切る・皮をむく・そろえる)等できる方には手伝ってもらい利用者、職員が同じテーブルを囲んで同じものを食べ楽しく食事ができる雰囲気づくりを大切にしている	献立には出来るだけ季節感のあるものを取り入れおいしそうに盛り付けを工夫し食欲を高め楽しく食べられるような言葉賭けや働きかけを行っている
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	「何が好きか」の答えが返ってこない人には日頃食べている物の中から何が好物であるのかを感じ取るようにしている	日頃から利用者一人ひとりの好物を感じ取るように心がけながら支援している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用して時間を見計らいながらの誘導を行うことによりトイレでの排泄ができるように支援している		失禁時の着替えはさりげなく居室に誘導しプライバシーに配慮して対応を行っている
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時には声をかけ確認して行っている。入りたくない方には無理強いしないで気持ちよく入っていただけるように支援している		利用者の希望や体調に合わせてゆっくりと気持ちよく入浴してもらえるように午前、午後とに分けて対応している
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握して一人ひとりに合わせた睡眠時間に休んでいただいている。日中は声をかけ疲れが強い方は小時間の休憩を取るよう支援している		日中の活動(朝の体操・集い・ゲーム等)を充実させ夜間熟睡できるように取り組んでいく
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりができる範囲で手伝ってもらっている(洗濯物たたみ・干す・ダスキンがけ・食事の下ごしらえ等)		日常生活以外に天気の良い日は散歩や畑の草取り、チリだしなど、楽しみとなるように行っている
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理されている方はおられない		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があれば職員と一緒に出かけるようにしている		利用者の希望によって職員と一緒に買い物や散歩に連れ出すように努めている
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見・ブドウ狩・紅葉見学等年間行事として取り入れている		年間行事として行っている以外に家族や本人が望まれることであればでかける機会をつくり支援していく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があった場合は電話に出てもらい声を聞かせるようにしている		手紙やハガキが書ける人には家族へおたより等出せるよう取り組みたい
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室でゆっくり過ごしていただいている		家族はよく訪問され訪問の際には食事介助など協力してもらい、又居室にてゆっくり過ごしてもらってる
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はいかなる場合でも行わないように取り組んでいる		職員全員が確認し身体拘束のないケアを実践している
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関その他のドアもいつでも出入りが自由できるように鍵をかけないようにしている。(夜間は別21:00~6:00)		日中は開放的に誰でも自由に出入りが出来るようにしている
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者がどこに居られるかいつも視野に入れ見守りを怠らないように心がけている		職員は常に利用者を見守りやすい場所にいて利用者1人ひとりの位置や様子を把握している
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所は決まっているが鍵をかけたりはしていない。危ないと思えたらその都度、本人にわからないようにさりげなく別の場所へ置くように配慮している		注意の必要な物品は保管場所があり明確に保管、管理している
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故発生した場合はすみやかに報告を行うとともに事故報告書を提出している		事故防止の為、色々な事を予測し職員全員で話し合い、安全に安心して過ごして預けるよう取り組む

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には行っていない		知識を高めるための勉強会や研修への参加を取り入れる。又、初期対応の訓練も消防・病院に協力をお願いし実施していく
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回(昼・夜)を想定して特養と協力体制の下、避難訓練を行っている。消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの指導を受けている		非常ベルを設置し特養と当直室へ繋がるようになった為、いかなる場合でもすぐに応援にかけ付けてもらえるようになった
72	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族には面会時にそれとなく伝えている。又、往診時の医師の話等職員に伝え実施している		そのときそのときの状態に沿った対応は日々の業務の中で話し合いながら行っている
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェック・重症者に対しては少しでも状態の変化が見られたときにはチェックし病院受診を行っている。職員は一人ひとりの状態を把握している		バイタルチェックや日頃の常態観察、申し送り等で1人ひとりを把握し早期に対応に結び付けている
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を渡して用法や用量を理解するように努めている		利用者全員の処方箋はファイルにまとめて綴じていつでも見れるようにしているし、職員にも渡している、臨時薬は申し送りノート、口頭により伝えている
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を活用して便秘の予防につなげている		便秘者が多く、下剤服用となっているが食事や運動などでコントロールし自然排便が出来るよう取り組む
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きを行ってもらっている。自らできない方には職員が手伝ったり口腔清拭を行っている。年1回歯科検診を実施し口腔の状態・指導を行ってもらっている		利用者の力を引き出しながら口腔内の清潔に努めている。寝たきりの方には吸引後や痰のこびりつきがある時にはその都度口腔ケアを行っている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとりの 状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分は利用者の状態に合わせてキザミ食、 トロミをつけたりと食べやすく工夫している。食事量が 少ないときには高カロリー補助食品を用いて補って いる		食後も観察を行い利用者の残存能力を活かせるよ うに嗜好の把握や食事形態、自助具の検討を行っ て行くように努力する
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決め があり、実行している(インフルエンザ、 疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防接種、手指の消毒、うがい、換気、室内消毒(業 者委託)など実施している		継続して行う。インフルエンザ、ノロウイルス等発生 はない。インフルエンザの予防注射は利用者・職員 全員に義務づけ蔓延しないように実施している
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場とし ての台所、調理用具等の衛生管理を行 い、新鮮で安全な食材の使用と管理に 努めている	2~3日おきに食材を発注し新鮮な物を使うようにして いる。賞味期限など確認して古い物は捨てるようにし ている。食中毒は出たことがない		手洗い調理用具等の衛生管理や食品の整理を行い 食中毒に関する知識を高めるように取り組む
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工 土 利用者や家族、近隣の人等にとって親し みやすく、安心して出入りができるよう に、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇には花を植えたり鉢植えを置いたり又、玄関には 鍵をかけず誰でも自由に出入りできるようにしている		今以上に多くの地域の方が出入りできるような雰 囲気作りをしていく
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、 食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にと って不快な音や光がないように配慮し、生 活感や季節感を採り入れて、居心地よく 過ごせるような工夫をしている	自然の光が入り明るい感じである。壁には色々の写 真を張ったり季節の花を飾ったりと雰囲気作りに心が けている		花やその時期に応じた飾りつけを清潔感や季節感 を取り入れている
82	共用空間における一人ひとりの居場 所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気 の合った利用者同士で思い思いに過ご せるような居場所の工夫をしている	孤立させないようにホールにソファを置き気に入 った人同士ゆっくりとくつどいでいただけるように工夫し ている		その時の利用者のしたい事や気持ちに答えられる 様に寄り添い話をし思いお思いに過ごせる様に心が ける

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談して使い慣れた物は持ち込んでもらっている。 布団、たんす等は本人が使い慣れた物で個々に合った居室作りを行っている		入所して間もない方には家族に相談して大事にされていたものとか持ってきていただき安心して過ごしていただけるように働きかける
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	こまめに行なっているとは言えないが出来るだけ臭いがこもらないように窓を開けたり消臭剤を使ったり空気清浄機を設置し気持ちよく過ごしていただいている		悪臭の原因を調べ悪臭の元を立つように心がける。又、管理者等臭いに気付かれたときなどはその都度注意していただき改善に心がけている
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることには声掛けを行いなるべく本人に行なってもらいながら自立に繋がるように促している		一人ひとりの残存機能を把握して職員間での情報の共有を図りより利用者が自立できるように取り組んでいく
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	重度の人が多く現状ではケアの方に手をとられて、自立支援につなげる事は難しいが、関わりは多く持つように取り組んでいる		一人ひとりをしっかり観察して気付きを多く持ちどのような対応を行ったら自立に結びつくのかを考えていくようにする
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関は広く取ってあるために、天気の良い日は気分転換をかねて外での昼食やおやつを取ったり日向ぼっこをしたりしている。ベランダでは焼肉会をしたりと活かしている		その時の利用者のしたい事や意見を取り入れ利用者の気持ちに答えられる様に寄り添い話を聞き思い通りに過ごされるように取り組む

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

山間地で地域から離れた場所に特別養護老人ホームと併設して建てられたホームである。年々、重度化が進んでいるが家庭的な雰囲気を壊さずに寄り添ったケアを大事にしながら支援している。毎日、利用者が生き生きと過ごされるように日課としてリズム体操・ゲーム等を行っている。 憩いの場がホールとなってきているために開放的でいつでも童謡や演歌、ナツメロなどの音楽が流れていて利用者が知っている曲になると自然に口づさんでおられる。 食事のメニューはあるものを利用して時々利用者の意見を聞きながらその時に食べたいものを提供している。 緊急時対策として特養とGHが直ぐに連絡が取れるように非常ベルを設置したことにより即応援に駆けつけてくれるようになり一層利用者の安全を確保することができるようになった。 職員間のチームワークもよく明るく、笑顔が絶えない。